

# 国立長寿医療研究センターにおける 終末期の希望調査開始のお知らせ

当センターでは病院内の終末期医療研究班の活動として、「私の医療に対する希望(終末期になったとき)」希望調査を開始しました。

これまで、多くの高齢者の方々は最後の瞬間(とき)にどうして欲しいのかの希望を残しておられませんでした。そのため、特に終末期の治療方針について、医療スタッフやご家族が判断に困り苦悩する場合がございます。

この調査票では、将来ご本人が終末期を迎えた時に、どのような医療を希望されるかを記載・提出して頂きます。この調査票は記載後、当センターのソーシャルワーカーにご提出頂き、病院内で保管します。終末期になって、ご自身で治療方針を判断できなくなったとき、担当医師からの依頼により、この希望調査票をご家族や担当医師に見せます。

現在、当センターに通院中の方を対象として調査を行っています。ご自分の希望を残しておかれたい方は、当センター医事課受付で記載用封筒をお受け取り頂き、調査票提出及び確認のためのご予約をお取りください。

お問い合わせ：

〒474-8511 愛知県大府市森岡町源吾35

独立行政法人国立長寿医療研究センター

在宅医療・地域医療連携部 ソーシャルワーカー

電話(代表)0562-46-2311(内線2321)

## 私の医療に対する希望（終末期になったとき）

終末期とは「生命維持処置を行わなければ、比較的短期間で死に至るであろう、不治で回復不能の状態」です。

- ・ 患者様が終末期になったときの受けられる医療に対する希望を患者様ご本人が記載してください。
- ・ 患者様ご自身で判断できなくなられたとき、主にご家族・主治医の参考になると思われます。
- ・ この希望はいつでも修正・撤回できます。
- ・ 法律的な意味はありません。

### 1. 基本的な希望（希望の項目をチェック(✓)してください）

- ① 痛みや苦痛について  できるだけ抑えて欲しい(  必要なら鎮静剤を使ってもよい)  
 自然のままがいい
- ② 終末期を迎える場所について  病院  自宅  施設  病状に応じて
- ③ その他の基本的な希望（自由にご記載ください）  
 ( )

### 2. 終末期になったときの希望（希望の項目をチェック(✓)してください）

- ① 心臓マッサージなどの心肺蘇生  して欲しい  して欲しくない
- ② 延命のための人工呼吸器  つけて欲しい  つけて欲しくない
- ③ 抗生物質の強力な使用  使って欲しい  使って欲しくない
- ④ 胃ろうによる栄養補給  して欲しい  して欲しくない  
 「胃ろうによる栄養補給」とは、流動食を腹部から胃に直接通したチューブで送り込むことです
- ⑤ 鼻チューブによる栄養補給  して欲しい  して欲しくない
- ⑥ 点滴による水分の補給  して欲しい  して欲しくない
- ⑦ その他の希望（自由にご記載ください）  
 ( )

### 3. ご自分で希望する医療が判断できなくなったとき、主治医が相談すべき人はどなたですか。（お書きいただかなくても結構です）

お名前 ( ) ご関係 ( )  
 ( ) ( )

患者様のお名前 \_\_\_\_\_ 生年月日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

ご住所 \_\_\_\_\_

診察券番号 \_\_\_\_\_ 記載年月日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

# 希望調査票の受け取りと記載・提出の手続き

## 1. 希望調査票の受け取りと確認のための予約

- 医事課受付で希望調査票用封筒をお受け取りください
- 希望調査票確認のための予約を医事課受付でお取りください

2. 「説明書」をお読み頂き、同意される場合、「私の医療に対する希望」調査票（桃色）の各項目を記載してください。  
記載の時に「各項目の説明」を参考にしてください。

## 3. 希望調査票の提出

- 確認予約の時間にお越し頂き、病院内の社会復帰支援室を直接お訪ねください。受診ではありませんので、診察券を病院受付の機械に通さないでください。
- 希望調査票の入った封筒と診察券・保険証を必ずご持参ください。
- 社会復帰支援室内でソーシャルワーカーが30分程度ご本人確認や希望調査票の主旨や各項目の説明を致します。
- ご本人の記載内容をご確認頂き、ソーシャルワーカーに調査票をお渡しください。

## 4. 1年後の希望の再調査

- 提出の1年後にご自宅への郵送等で希望調査票を送付させて頂き再調査を致します。1年後の手続きはその際に、改めて通知させて頂きます。

# 「私の医療に対する希望(終末期になったとき)」調査票 の説明書

これまで、多くの高齢者の方々は最後の瞬間(とき)にどうして欲しいのかの希望を残しておられませんでした。そのため、特に終末期の治療方針について、医療スタッフやご家族が判断に困り苦悩する場合がございます。

この「私の医療に対する希望(終末期になったとき)」調査票では、将来ご本人が終末期を迎えた時に、どのような医療を希望されるかを記載・提出していただきます。その内容を当センターのソーシャルワーカーが確認し、保管します。終末期になって、ご自身で治療方針を判断できなくなったとき、この調査票をご家族や担当医師に見せます。なお、この調査票は法律的な意味はありませんし、強制力もありません。また、この調査票にお答えいただかない場合もなんら不利益を被ることはありませんし、お答え頂いた内容はいつでも修正・撤回できます。修正を希望される場合は、新たに調査票を記載提出してください。撤回される場合は、ソーシャルワーカーにご連絡いただき、所定の用紙を記載提出ください。

希望調査票を提出された1年後に、書かれた内容について再確認をさせていただきます。

提出いただいた希望調査票の内容とご本人のカルテ情報とを照合し、集計して、この調査票の改善点等の検討を行います。ご本人が将来、亡くなられた場合は、この調査票を実際に参考にしたかどうかを、

ご家族と担当の医療スタッフに問い合わせをさせていただきます。  
この研究以外の目的には使用しません。これらの集計結果を学会  
等で発表させていただく場合がありますが、その場合は集計した数  
値のみを扱いますので、個人の情報について公表されることは一  
切ありません。

以上の主旨に同意され、ご自分の希望を残しておかれたい方は、  
院内の「私の医療に対する希望(終末期になったとき)」調査票に  
ご記載頂き、医事課受付で調査票確認の予約をお取りください。  
不明な点は下記までお問い合わせください。

#### 連絡先

在宅医療・地域連携診療部

ソーシャルワーカー

電話(代表)0562-46-2311

(内線)2321

## 希望調査票各項目の説明

### 1. 基本的な希望 ① 痛みや治療について

- 強い鎮痛薬(麻薬系鎮痛薬等)で痛みを抑えると意識が低下する  
場合が多い。
- 鎮静剤を使うと、意識は低下するが、副作用で呼吸が抑えられる  
ことが多い。
- 「自然のままでいたい」とはできるだけ自然な状態で死を迎えたい、  
したがって、ある程度痛みがあっても、強い薬で意識レベルを低  
下させることは避けてくださいという希望です。

### 2. 終末期になったときの希望について

#### ① 心臓マッサージなどの心肺蘇生

- 心肺蘇生とは、死が迫ったときに行われる、心臓マッサージ、気管  
挿管、気管切開、人工呼吸器の装着、昇圧剤の投与等の医療行  
為をいいます。
- 心臓マッサージをすると、心臓が一時的に動き出すことがあります。
- 気管挿管の場合、必ずしもすぐに人工呼吸器を装着する訳では  
なく、多くの場合、手動のバック(アンビューバック)を連結して医  
療スタッフが呼吸補助をします。この行為により、一時的に呼吸が  
戻ることがあります。

## ② 延命のための人工呼吸器の装着

- 終末期の疾患の違いにより、装着後、死亡するまでの期間は異なります。

## ③ 抗生物質の強力な使用

- 感染症の合併があり、通常の抗生剤治療で改善しない場合、さらに強力に抗生物質を使用するかどうかの希望です。

## ④ 胃ろうによる栄養補給

- 事前に内視鏡と若干の器具を用い、局所麻酔下を開腹することなく栄養補給のための胃ろうを作る手術(経皮内視鏡的胃ろう造設術)を受ける必要があります。鼻チューブよりも一般的に管理しやすい方法です。

## ⑤ 鼻チューブによる栄養補給

- 胃ろうや鼻チューブでは、つねに栄養補給ができます。しかし、終末期の状態では供給された栄養を十分に体内に取り入れることができないため、徐々に低栄養になります。また、栄養剤が食道から口の中に逆流して肺炎を合併することがあります。

## ⑥ 点滴による水分補給

- すぐに重度の脱水にならないようにできます。栄養はほとんどなく次第に低栄養が進行します。
- このほかに太い静脈に点滴チューブを通し、より多くの栄養を持続的に入れる高カロリー輸液(IVH)という方法がありますが、胃ろう・鼻チューブでの栄養補給の時と同様、終末期では徐々に低栄養になります。また、点滴チューブを介した感染症を起こすことがあります。